

視路疾患における視野検査の raison d'être

日時・会場

2016年5月15日(日) 12:00-13:00

第2会場(神戸国際会議場 3F 国際会議室)

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1

座長

**敷島 敬悟** 先生

東京慈恵会医科大学

座長のことば

神経眼科における視野検査は不可欠のツールであることは今さら申すまでもありません。視野検査は頭蓋内疾患同定の第一歩となります。MRIによる拡散テンソル画像でも詳細な判定には限界があり、OCTでも外側膝状体以降の診断は早期には不可能です。近年は、自動静的視野計が急速に普及し緑内障分野では不可欠な検査法となっていますが、神経眼科領域ではGoldmann視野計も依然として欠かせない検査法です。視野異常のパターンによる視路の障害部位の診断は、まさに本学会のテーマである「raison d'être」そのものです。本セミナーでその醍醐味を共有しましょう。

講演1

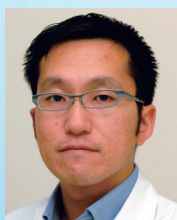


視路疾患における視野の見方

木村 亜紀子 先生

兵庫医科大学

講演2



忘れられない視路疾患

後関 利明 先生

北里大学

共催

第5回日本視野学会学術集会
千寿製薬株式会社 / 大塚製薬株式会社

第5回日本視野学会学術集会へのご参加には参加登録が必要です。

2016年4月1日(金)まで早期割引を実施しております。(※以降は当日登録となります)

ホームページをご参照ください。

<http://jps.urmin.jp/meeting/m-index.html>